

## 出版会活動

◆『フランスの詩と歌の愉しみ』を  
九月二十四日より発売

フランス近代詩と音楽との幸福なる出逢い—フランス語話者による詩の朗読、東京藝術大学大学院生による歌曲演奏を並録したCDを連動させながらその味わい方を丁寧に解説し、「詩の音楽性」と呼ばれるものがどあたりにあるのかを具体的に探る、内外でも類を見ないマルチメディア型入門書。巻末に読みやすい対訳を付す。



◆CD『Haydn total』を  
十二月七日より発売

東京藝術大学音楽学部室内楽講座とウィーン音楽演劇大学ヨゼフ・ハイドン室内楽研究所による共同プロジェクト『Haydn total』は、ヨゼフ・ハイドンの弦楽四重奏曲全六八曲を、両大学の現役学生および卒業生によって録音するという企画で、二〇〇九年のハイドン没後二〇〇年の記念事業に合わせて発足し、二〇一二年まで足掛け四年を費やしてついに完成した。



◆『アウト・オブ・サイト』を  
一月四日より発売

造形作家、池田政治の軌跡をまとめた一冊。池田は、デザイナー柳宗理に師事するが、工業デザインに違和感を覚え、制約のない純粋なカタチの追求を試み、木彫を手がける。一方で、東名高速足柄サービスエリアや群馬県庁など、公共空間のデザインを手がけ、造形と社会との関係を問いつけてきた。その四十年以上の作家としての軌跡を、豊富な図版とテキストで紹介。芥川賞作家の絲山秋子が本書のために書き下ろしたエッセイも併載。



東京藝術大学出版会の出版物等は、本学藝大アートプラザ、アマゾンネット販売および一般書店にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ(050-5525-2102)まで

## 交流

◆ウィーン美術アカデミー  
(美術学部、建築学部)

七月十九日、ウィーン美術アカデミー(美術学部、建築学部)と本学美術学部(責任者:建築科元倉真琴教授、絵画科保科豊巳教授)は、芸術国際交流協定を締結した。これは、二〇〇六年から交流が始まったもので、今後は、学生の派遣・受け入れを相互に行うとともに、合同のワークショップなどを継続的に行うことを計画している。

◆エコール・ブル国立工芸学校

十月九日、エコール・ブル国立工芸学校と本学美術学部工芸科(責任者:工芸科篠原行雄教授)は、芸術国際交流協定を締結した。これは二〇〇〇年から交流が始まったもので、以降、継続的に工芸科教員が訪問を行っていた。今後は、学生の相互交流、教員交流、共同研究や交流展、ワークショップなどの実施を計画している。

## 受章・受賞

◆乾久美子准教授が「第十三回ウェネチア・ビエンナーレ国際建築展 国別参加部門 金獅子賞」を受賞

八月二十九日、美術学部建築学科の乾久美子准教授が、第十三回ウェネチア・ビエンナーレ国際建築展において、参加作家として金獅子賞を受賞した。

受賞対象の日本館の展示「ここに、建築は、可能か」は、コミッシヨナー伊藤雄氏及び、作家として藤本壮介氏、平田晃久氏、畠山直哉氏、そして乾久美子准教授が参加している。

日本館は、東日本大震災で被害を受けた陸前高田に被災者が集まれる集会場「みんなの家」の建設をめぐるドキュメントを提示し、震災後の建築の可能性を問う内容となっている。

◆財団法人東洋文庫

十二月五日、財団法人東洋文庫と本学は、連携及び研究協力に関する協定書を取り交わした。この協定は、両者が、芸術教育の発展と我が国の芸術文化の振興に資することを目的とし、芸術文化資料のアーカイブ化や研究者等の相互交流、人材育成等について連携及び研究協力を推進するために締結したものである。

## 運営

◆平成二十四年度「藝祭」

九月七日(金)から九日(日)まで、上野校地において藝祭を開催した。

本年度の藝祭のテーマは、「eat beat」。



「eat beat」に、来場いただいた方々に、私たちの渾身の芸術を味わっていただきたい「学生たちのそのような思いが込められている。七日(金)十時に本学をスタートした御輿パレードは、天気に恵まれ、多数の観客の声援を受けながら、上野公園を一周した。

◆藝大アーツ・サミット2012

アジアから世界へ—連携と共生—

十月十日、創立125周年を記念して、アジアの芸術系大学の学長たちを招き、アジアの芸術大学の連携の在り方や新たな芸術創造についてアジアから世界に向けて発信する「藝大アーツ・サミット2012」アジアから世界へ—連携と共生—を開催した。参加大学は、日本をはじめ、韓国、台湾、モンゴル、インドネシア、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシアの八カ国一地域から合計二十三大学。

十日は宮田亮平学長の挨拶、近藤誠一文化庁長官からの祝辞の後、鼎談とシンポジウムが行われた。

ウムが行われた。

鼎談では、青木保国立新美術館館長、宮田学長、山村浩二藝大大学院映像研究科教授によりアジアの芸術文化の未来について語り合われ、続くシンポジウムでは、「アジアにおける芸術の独創的展開」—アジアの芸術—今後の連携の在り方—の二つのテーマについて、モデレーターである北郷悟、渡辺健二両副学長の進行のもと、各大学の学長たちがそれぞれの多様な意見を発表した。

シンポジウムの総括では、参加大学の学長たち全員が壇上に並び、「藝大アーツ・サミット2012宣言」に調印し、閉幕した。

◆藝大アーツイン 東京丸の内

十月三十日(火)から十一月四日(日)まで六日間にわたり丸ビル(東京都千代田区丸の内)において開催された「藝大アーツイン 東京丸の内」(東京藝術大学と三菱地所株式会社が共同主催)は、三万三千人を超える来場者を迎え大盛況のうちに閉幕した。

六年目となる今年はオープニング・セレモニーをかわきりに宮田亮平学長と澄川喜一元学長とのスペシャル対談「アートのときめき」が行われた。

また、特別協賛をいただいた東京外国語大学から亀山郁夫学長、渡邊啓貴国際関係研究所長をお招きし、本学教員との



## 第26号刊行にあたって

「若い才能」を介して私たちはここに集まっている。

楽しそうに芸術と関わる人もいれば、気難しそうな人もいます。優等生もいれば不良っぽい人もいます。

様々な才能が集まる大学であり、その顔が見える「窓」として藝大通信は作られている。

今号も興味の絶えない顔ぶれが揃った。時代の変化と響き合いながら、変わるところ、変えないところをしながら取り込みながら、つまるところ藝大は変化している。そういう感覚が先端芸術表現科の小沢剛先生と器楽科(ピアノ)の坂井千春先生との対談から読み取れる。

他の記事も「今ここにある藝大」を読み取れる内容ばかりだ。

藝大通信編集長  
松下 計

展覧会・演奏会の最新情報は、  
東京藝術大学公式 Web サイト  
(<http://www.geidai.ac.jp/>) を  
ご覧ください。

### ● 展覧会についてのお問い合わせ先

東京藝術大学大学美術館  
Tel. 050-5525-2200  
NTT ハローダイヤル  
Tel. 03-5777-8600

### ● 演奏会についてのお問い合わせ先

東京藝術大学演奏芸術センター  
Tel. 050-5525-2300

### ● 演奏会チケットの取り扱い

藝大アートプラザ  
Tel. 050-5525-2102  
ヴォートル・チケットセンター  
Tel. 03-5355-1280  
チケットびあ  
Tel. 0570-02-9999  
(一部携帯電話・PHS・IP 電話は  
ご利用いただくことができません。)  
東京文化会館チケットサービス  
Tel. 03-5685-0650  
イープラス (e+)  
<http://eplus.jp/>

### ● 藝大アートプラザのご案内

Tel. 050-5525-2102

対談や、三菱地所賞2012美術部門受賞者による作品展および音楽部門受賞者によるリサイタルが開催されたほか、スタインウェイ・ピアノを用いたピアノ専攻学生によるランチタイム・コンサート、ライブ・コンサートなど、連日多彩なプログラムを展開し続け、来場のお客様を魅了した。

### ◆「学長と語ろう」

ゲストに「ラ・ロシェル」のオーナーシェフであり「料理の鉄人」として有名な坂井宏行氏を招き、十一月十日(土)、第十二回「学長と語ろう 奏楽堂トーク&コンサート」が開催された。「料理は一つのファッションだ」をテーマにした第一部の冒頭では、自身の作品を披露した宮田学長に対し、坂井氏が舞台上で学長をイメージした料理を作りプレゼント。



トラリアで学び、さらに帰国後には懐石料理を学んだというフレンチのシェフとしては異色の経歴を披露。

休憩を挟んだ第二部では、本学音楽学部の稲川榮教授の指揮による東京藝大ウィンドオーケストラにより演奏されたドン・ギリス作曲《台所用品による変奏曲》で、なんと坂井氏が演奏に参加。鍋やフライパンなどの台所用品を用いて奏でられる賑やかでユニークな調べに、客席からは割れんばかりの拍手が送られた。

◆「芸術実践と研究」シンポジウム  
十一月三日(土)、音楽学部五号館において、芸術リサーチセンター主催のシンポジウム「芸術実践と研究」実技系博士学位授与プログラムの研究成果発表会を開催した。

本学の同センターは、設置以来五年にわたって国内外の博士プログラムに関する動向調査に取り組み、芸術実践と研究の創発的関係について模索してきた。

会場には芸術系の専攻を持つ大学関係者を中心に百名を超える参加者があり、美



術、音楽、映像の各分野別に行われた分科会やその後の全体討議において、本プログラムについて、さらには芸術系大学院の博士学位プログラムの現状と今後について活発な議論が交わされた。

### ◆今年度下半期に開催された 主な展覧会、演奏会記録

#### 《大学美術館》

日中国交正常化40周年記念特別展

「草原の王朝契丹―美しき3人のプリンセス―」  
会期 七月十二日(木)～九月十七日(月)  
入場者数 三万五三四四名

東京藝術大学創立125周年記念事業

「漆芸 軌跡と未来」  
会期 十月五日(金)～十月二十一日(日)  
入場者数 六二六五名

尊厳の芸術展 The Art of Gaman-  
会期 十一月三日(土)～十二月九日(日)  
入場者数 五万五六一〇一名

東京アートミーツング [第3回]  
Tokyo Sonic Art Weeks  
アートと音楽「共感覚実験劇場」  
会期 一月七日(月)～一月十七日(木)  
入場者数 二二五一名

《奏楽堂》  
オペラ定期 第五十八回

## 藝大基金

平成二十四年十月四日、東京藝術大学創立百二十五周年を契機として、本学の教育研究活動・社会連携活動の充実、ひいては我が国における文化芸術活動の振興を目的として、東京藝術大学基金(藝大基金)を設立しました。

「藝術」は、人の心に「ときめき」をもたらす、大いなる「愛」を呼び起こすものです。本学は、次代を担う多くの若者が藝術家を志す社会でありたいと願い、日夜これまでの伝統を基礎に新たな芸術表現の創出のため、たゆまない努力を積み重ねる所存です。少しでも多くのご協力をお待ちしています。

お問い合わせは総務課渉外事業企画室  
050-5525-2025  
藝大基金 web サイト  
<http://fund.geidai.ac.jp/> (三月下旬より開設)

開催日 九月二十九日、三十日  
入場者数 八三八名、八三七名  
和楽の美 邦楽絵巻「悟空と九尾の狐」  
開催日 十月十一日  
入場者数 七二九名  
特別公演 隅田川カカリーリユー・リヴァー  
開催日 十月二十八日  
入場者数 八五四名  
藝大フィルハーモニア・合唱定期  
開催日 十一月二十三日  
入場者数 八七一一名  
邦楽定期演奏会  
開催日 十一月二十八日  
入場者数 八四五名

### ◆藝大フレンズ加入者状況

加入者数 平成二十五年一月三十一日現在

賛助フレンズ 個人三五七名

法人団体四社

特別賛助フレンズ 個人十四名

◆「藝大通信」編集部では、皆様からのご意見・ご感想などお待ちしております。今号の内容についてのご感想や、今後のご要望などありましたら、こちらまでお寄せください。

〒二〇〇八七一四 東京都台東区上野公園十二-八  
東京藝術大学総務課内 藝大通信編集部  
ファックス 03-5685-1760 E-mail [toiawase@ml.geidai.ac.jp](mailto:toiawase@ml.geidai.ac.jp)